Chapter 3 キャンパスライフ

キリスト教の大学ですので入学式から卒業式まで、またイースター礼拝やクリスマス点火式などキャンパスで行われるイベントがミッションスクールの雰囲気にあふれています。サークル活動も盛んで、全国的に活躍している部も多くあります。学生総数約2,300名という規模ですので、学生と教職員、学生一人ひとりが大変フレンドリーで、うれしいことがあれば共に喜び、困ったことがあれば助け合うという気風にあふれたキャンパスです。埼玉県の中心部大宮駅から一駅という交通の便に恵まれたところにありますが、キャンパスは緑にあふれ、四季の変化を豊かに感じることのできるのも特色です。

在学者数

学部学生数（2015年5月1日現在）

政治経済学部

学科名	政治経済学科			コミュニティ政策学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	160	142	42	–	–	–	142
2年	160	119	23	–	–	–	119
3年	100	92	12	80	66	17	158
4年	100	117	16	100	85	18	202
合計	520	470	93	180	151	35	621

人文学部

学科名	欧米文化学科			日本文化学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	80	54	25	80	65	20	119
2年	80	52	31	80	88	47	140
3年	80	49	25	80	82	29	131
4年	80	84	35	80	106	43	190
合計	320	239	116	320	341	139	580

人間福祉学部

学科名	児童学科			こども心理学科			人間福祉学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	100	100	53	80	43	22	80	63	27	206
2年	100	101	58	80	65	32	80	82	35	248
3年	100	101	61	80	56	40	80	73	31	230
4年	100	109	65	80	59	26	80	92	39	260
合計	400	411	237	320	223	120	320	310	132	944

学生数総計

合計	2,145（内女子数 872）

国籍別留学生数（2015年度）

※学部生のみ

国籍	男子	女子	総計
中国	99	77	176
韓国	3	3	6
台湾	2	0	2
ネパール	5	3	8
ベトナム	16	21	37
マレーシア	1	1	2
タイ	1	1	2
スリランカ	1	0	1
ミャンマー	0	1	1
インドネシア	1	0	1
セネガル	0	1	1
メキシコ	0	1	1
タジキスタン	1	0	1
合計	130	109	239

学科・学年別留学生数（2015年度）

※学部生のみ

学科名	政治経済	コミュニティ政策	欧米文化	日本文化	児童	こども心理	人間福祉	計
1年	57	—	17	6	0	0	4	84
2年	31	—	8	3	0	2	3	47
3年	15	15	4	4	0	5	2	45
4年	20	18	9	9	0	3	4	63
合計	123	33	38	22	0	10	13	239

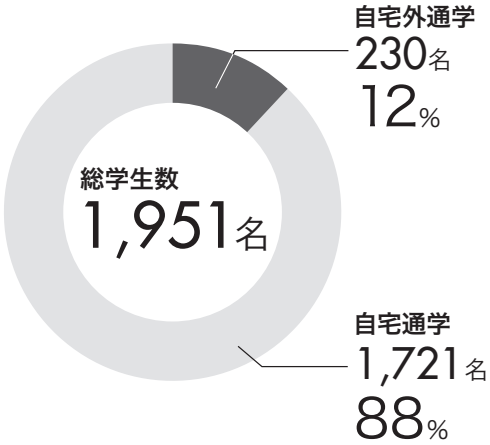
学生の退学（除籍含む）状況について（学部）

■4年間の退学（除籍含む）状況
2011年4月に入学した学生数　647人
そのうち2015年3月に卒業した学生数　455人
そのうち2015年3月までに退学（除籍を含む）した学生数　122人

■1年間の退学（除籍含む）状況
2014年4月に入学した学生数　514人
そのうち2015年3月までに退学（除籍を含む）した学生数　12人

通学状況（2015年5月1日現在）

自宅・自宅外通学の割合



自宅外通学者の出身県

都道府県名	人数
新潟県	40
埼玉県	32
福島県	21
東京都	20
宮城県	17
群馬県	11
長野県	11
茨城県	10
山形県	10
千葉県	6
岩手県	5
静岡県	5

都道府県名	人数
青森県	4
秋田県	4
北海道	4
山梨県	4
沖縄県	2
富山県	3
山口県	3
大阪府	2
神奈川県	2
熊本県	2
栃木県	2
福井県	2

都道府県名	人数
愛知県	1
大分県	1
岡山県	1
岐阜県	1
徳島県	1
福岡県	1
宮崎県	1
不明	1
合計	230

通学地域

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
茨城県	古河市	15	0	15
	結城市	5	1	6
	筑西市	3	0	3
	牛久市	2	0	2
	土浦市	2	0	2
	坂東市	2	0	2
	神栖市	1	0	1
	下妻市	1	0	1
	つくば市	1	0	1
	取手市	1	0	1
	龍ケ崎市	1	0	1
	小計	34	1	35
栃木県	小山市	6	0	6
	栃木市	4	0	4
	足利市	3	0	3
	宇都宮市	3	0	3
	下都賀郡	3	0	3
	佐野市	2	0	2
	那須塩原市	1	0	1
	下野市	1	0	1
	日光市	1	0	1
	芳賀郡	1	0	1
	小計	25	0	25
群馬県	高崎市	13	0	13
	前橋市	7	0	7
	太田市	6	0	6
	邑楽郡	4	0	4
	佐波郡	3	0	3
	館林市	3	0	3
	安中市	2	0	2
	伊勢崎市	2	0	2
	桐生市	1	0	1
	渋川市	1	0	1
	沼田市	1	0	1
	藤岡市	1	0	1
	小計	44	0	44
埼玉県	さいたま市北区	69	91	160
	上尾市	95	17	112
	川口市	97	1	98
	川越市	54	14	68
	さいたま市西区	36	27	63
	春日部市	44	1	45
	熊谷市	41	0	41
	越谷市	41	0	41
	さいたま市見沼区	40	1	41

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
埼玉県	さいたま市浦和区	34	2	36
	鴻巣市	32	3	35
	さいたま市大宮区	29	5	34
	久喜市	29	3	32
	深谷市	32	0	32
	さいたま市中央区	28	2	30
	桶川市	27	2	29
	さいたま市桜区	27	2	29
	加須市	27	1	28
	北本市	25	1	26
	さいたま市南区	23	3	26
	さいたま市岩槻区	22	3	25
	さいたま市緑区	20	1	21
	坂戸市	20	0	20
	戸田市	17	2	19
	草加市	17	1	18
	比企郡	17	0	17
	狭山市	16	0	16
	蓮田市	16	0	16
	所沢市	15	0	15
	ふじみ野市	13	2	15
	行田市	14	0	14
	白岡市	14	0	14
	新座市	13	1	14
	入間市	13	0	13
	羽生市	12	0	12
	東松山市	10	2	12
	入間郡	9	2	11
	北葛飾郡	10	1	11
	蕨市	10	1	11
	朝霞市	10	0	10
	児玉郡	10	0	10
	志木市	9	1	10
	本庄市	10	0	10
	北足立郡	9	0	9
	飯能市	7	1	8
	富士見市	8	0	8
	吉川市	8	0	8
	三郷市	7	0	7
	南埼玉郡	7	0	7
	八潮市	7	0	7
	日高市	6	0	6
	和光市	6	0	6
	幸手市	5	0	5
	大里郡	4	0	4

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
埼玉県	鶴ヶ島市	4	0	4
	秩父市	2	0	2
	秩父郡	1	0	1
	小計	1,228	194	1,422
千葉県	野田市	9	1	10
	柏市	7	0	7
	松戸市	6	0	6
	市川市	2	0	2
	浦安市	2	0	2
	流山市	2	0	2
	船橋市	2	0	2
	我孫子市	1	0	1
	千葉市	1	0	1
	東金市	1	0	1
	習志野市	1	0	1
	八千代市	1	0	1
	小計	35	1	36
東京都	板橋区	34	3	37
	北区	31	3	34
	練馬区	28	0	28
	足立区	25	0	25
	世田谷区	14	2	16
	江戸川区	13	2	15
	葛飾区	12	1	13
	杉並区	11	1	12
	荒川区	11	0	11
	青梅市	11	0	11
	新宿区	9	1	10
	豊島区	9	1	10
	大田区	9	0	9
	品川区	7	1	8
	東村山市	7	1	8
	小平市	7	0	7
	台東区	7	0	7
	江東区	6	0	6
	墨田区	6	0	6
	中野区	5	1	6
	清瀬市	4	1	5
	東久留米市	5	0	5
	文京区	5	0	5
	昭島市	4	0	4
	西東京市	4	0	4
	八王子市	3	1	4
	東大和市	4	0	4
	日野市	4	0	4

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
東京都	国立市	3	0	3
	国分寺市	3	0	3
	港区	3	0	3
	武蔵野市	3	0	3
	あきる野市	2	0	2
	府中市	2	0	2
	福生市	2	0	2
	三鷹市	2	0	2
	目黒区	2	0	2
	狛江市	1	0	1
	立川市	0	1	1
	多摩市	1	0	1
	中央区	1	0	1
	調布市	1	0	1
	千代田区	1	0	1
	西多摩郡	1	0	1
	羽村市	1	0	1
	町田市	1	0	1
	小計	325	20	345
神奈川県	横浜市	16	0	16
	川崎市	9	2	11
	相模原市	3	0	3
	小田原市	1	0	1
	座間市	1	0	1
	小計	30	2	32
不明		0	12	12

※学生の本人住所と保護者住所の一致の状況から算出。但し、留学生を除く。

施設

施設・設備について

校地・校舎面積等

	(㎡)
校舎・講堂・体育施設敷地	34,076
屋外運動上敷地	26,241
その他	1,427
計	**61,744**

SEIGブックセンター面積

(2014年11月開設)

	(㎡)
書籍	21.96
書庫	6.32
計	**28.28**

ピアノ・オルガン台数

	(台)
グランドピアノ	4
ピアノ・オルガン台数	27
エレクトンピアノ	6
電子ピアノ	23
オルガン	3
計	**63**

建物の用途別面積

	(㎡)
講義室・演習室	4,129
実験室・実習室	1,281
研究室	2,319
図書館	1,519
管理関係・その他	15,753
講堂(チャペル)	2,346
体育施設	1,081
計	**28,428**

PC利用環境

場所	備え付けPC
2号館	ノートPC120台
4号館	デスクトップPC82台
キャリアサポートセンター	デスクトップPC3台
総合図書館	デスクトップPC40台・ノートPC20台
インターネットカフェ	デスクトップPC6台

学生ホール座席数

	(座席数)
4号館1階食堂	260
エルピス館1階食堂	190
エルピス館2階インターネットカフェ	63
エルピス館2階エルピスホール	68
エルピス館2階特別食堂	20
計	**601**

備蓄倉庫

聖学院大学は災害時における上尾市の防災拠点校となっており、上尾市役所から配給された備蓄品を倉庫に設置しています。

図書館利用状況 (2015年3月31日現在)

情報センターとしての機能も兼ね備えている図書館棟には、約30万冊の資料のほか、4階にグループ閲覧室、3階にはコンピュータ優先席、ビデオ、DVDを見るための視聴覚コーナーがあります。

開館時間(参考)

曜日	月～金	土
授業開講期間中	8:45～21:30	8:45～17:00
その他期間	9:00～17:00	9:00～15:00

休館日
日曜・祝日、クリスマス、年末年始の定める日、入試日、蔵書点検期間(年1回)等

蔵書冊数

年度	2014			2013	2012
分類	和書	洋書	小計		
合計	236,553	65,406	301,959	299,823	297,236
全国大学平均(2013年3月)					205,000

(平均は図書館年鑑2014より)

館外貸出冊数

年度	全体(教職員・一般含む)			院生・学生・履修生のみ		
分類	2014	2013	2012	2014	2013	2012
合計	18,269	19,392	21,260	13,748	14,631	16,451
全国大学平均(2013年3月)						22,000

(平均は図書館年鑑2014より)

その他の資料

和雑誌	414
洋雑誌	113
スライド	34
マイクロ資料	18,825
カセットテープ	752
ビデオ・LD・DVD	3,150
CD	1,299
CD-ROM	794

入館者統計

年度	2014	2013	2012
開館日数	281	279	283
入館者数	125,756	134,992	143,664

入館者数内訳

年度	2014	2013	2012
学生計	112,751	122,517	131,881
教職員計	8,979	8,040	7,484
一般	4,225	4,435	4,299

アクティブラーニング・スペース

図書館では、2014年2月にアクティブラーニング・スペース(ALS)が整備されました。ALSは、4つのグループ閲覧室から成り、各部屋にホワイトボード、電子黒板機能を備えたプロジェクター、可動式の椅子と机が設置されています。図書館は原則として静かにしなくてはいけない場所ですが、ALSではディスカッションが認められていますので、ゼミの授業や学生同士のグループ学習などに活用することが出来ます。また、iPadを使用した双方向授業支援システムも導入されました。大学教育の質的転換が求められている今、図書館は「能動的な学修・アクティブラーニング」を支える施設として、大きく生まれ変わろうとしています。

アクティブラーニング・スペース利用件数(2014年度)

	(件数)
授業利用	480
図書館オリエンテーション	41
その他	27
計	**548**

聖学院学術情報発信システムSERVE利用状況(2012～2014年度)

聖学院学術情報発信システム SERVE(Seigakuin Repository for academic archiVE)は、聖学院の研究および教育の成果を収集・蓄積・保存するとともに、Web上で世界に向けて情報を発信するシステムです。このような学術研究成果発信のシステムは「機関リポジトリ」といわれ、世界中で多くの大学や研究機関が構築、提供しています。SERVE もこの機関リポジトリの一つです。また、聖学院の電子的情報の散逸を防ぎ、情報の組織的保存(アーカイブ)を目指すものです。
http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/

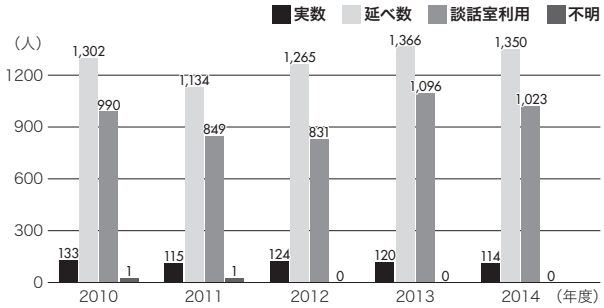
年度	2014	2013	2012
登録件数	208	258	512
閲覧件数	244,250	390,647	294,177
DL件数	170,217	217,860	30,798

※閲覧件数とは、各紹介ページ(書誌)へアクセスした件数
※DL件数とは、添付されている本文データを開いた件数

学生相談室

学生相談室は、大学生活を送る中で悩みや問題が生じたり、自分についてもっと考えたいと思うときに、その解決のお手伝いをするところです。心理的な相談だけではなく、思いがけないトラブルに遭遇してしまったり、聞きたいことがあるけれども誰に聞いたらよいかわからない時など、学生が気軽に相談できる窓口となっています。臨床心理士によるカウンセリングの他、静かに過ごしたい、ゆっくり考え事がしたいという方のための談話室を運営し、学生相談室便りを年に数回発行して心の健康の啓蒙活動も行っています。
開室時間 月～金 10:30-17:30

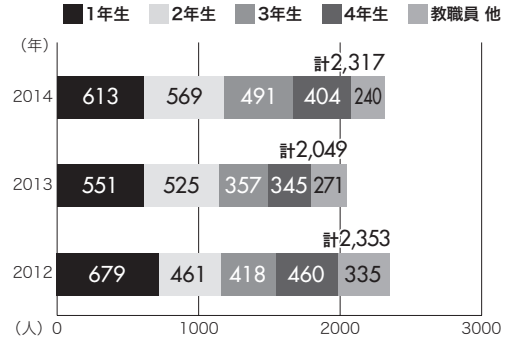
相談室利用状況(2010～2014年度)



保健室

保健室では、けがや病気の応急処置の他に、健康関連の図書の閲覧や、アルコールパッチテスト、肥満指導も実施しています。授業期間中、毎週水曜日14：00～15：00の間、学校医による診察や健康相談日も設けています。また、それ以外の日でも看護師による対症療法やアドバイス等も行っています。
開室時間 月～金 9:30-17:30　土 9:30-16:00

学年別来室者数(2012～2014年度)



課外活動

クラブ・サークル一覧

分類名	団体名	所属人数
委員会・連合	学友会総務委員会	40
	学友会文化会連合	20
	学友会体育会連合	20
	学友会特別委員会連合	8
	第28回 ヴェリタス祭実行委員会	33
	2015年度 卒業関連事業準備委員会	10
文化会	演劇部	16
	軽音楽部サウンドスクエア	50
	茶道部　表千家	22
	写真部	7
	東南アジアボランティア部Rung	16
	放送部	6
	法学研究会	17
	イラスト文芸部	37
	アカペラ部～てくてく～	27
文化会同好会	手話同好会	1
	児童文化研究会てふてふ	7
	猫文化同好会	11
	国際交流同好会　まのと	15
	政治学研究会	25
	漫画創作研究同好会	6
	美術同好会	8
	コメディー同好会　喜楽	4
	華道同好会	5
体育会	硬式庭球部	20
	サッカー部	20
	スキー部　ALPINA	3
	男子バスケットボール部　poseidons	12
	軟式野球部	8
	バドミントン部	12
	バレーボール部	10
	陸上競技部	34
体育会同好会	ソフトボール同好会　久米	11
	ソフトテニス同好会	15
	バスケットボール同好会　GRIP	40
	バレーボール同好会	50
	ダンス同好会　CRUSH	20
	サッカー同好会　kacy's	21
	卓球同好会	6
	アウトドア同好会	22
	ワンダー・フォーゲル同好会	5
特別委員会	聖学院大学クリスチャン・フェローシップ	24
	聖学院大学聖歌隊	9
	聖学院大学ハンドベル・クワイア	6
	聖学院大学フィルハーモニー管弦楽団	15
	聖学院大学ボランティア・アソシエーション	15

在学中のアルバイト時間

学期中、アルバイトとして週何時間くらい働いていましたか。
(2014年度卒業生アンケート)　回答者数(404)、回収率86%

内容	回答数	割合
15時間以上	144名	41%
10時間以上15時間未満	89名	25%
5時間以上10時間未満	53名	15%
5時間以内	18名	5%
アルバイトはしていない	50名	14%

学費

学部 授業料等納入金（2015年度）

学科	学年	学期	入学金	授業料	教育拡充費	施設費	後援会入会金	後援会費	学友会費	学会費	卒業関連事業費	同窓会費	学研災ガウン代	合計	年間合計
政治経済欧米文化	1年次	春	280,000	355,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	—	—	—	6,300	875,300	1,350,300
		秋	—	355,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	475,000	
	2年次	春	—	365,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	529,000	1,014,000
		秋	—	365,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	485,000	
	3年次	春	—	375,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	539,000	1,034,000
		秋	—	375,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	495,000	
	4年次	春	—	385,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	24,000	20,000	—	593,000	1,098,000
		秋	—	385,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	505,000	
	合　計		280,000	2,960,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000		24,000	20,000	6,300	4,496,300	4,496,300
日本文化	1年次	春	280,000	355,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	2,000	—	—	6,300	877,300	1,352,300
		秋	—	355,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	475,000	
	2年次	春	—	365,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	—	—	—	531,000	1,016,000
		秋	—	365,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	485,000	
	3年次	春	—	375,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	—	—	—	541,000	1,036,000
		秋	—	375,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	495,000	
	4年次	春	—	385,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	24,000	20,000	—	595,000	1,100,000
		秋	—	385,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	505,000	
	合　計		280,000	2,960,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	8,000	24,000	20,000	6,300	4,504,300	4,504,300
児童こども心理人間福祉	1年次	春	280,000	380,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	—	—	—	6,300	900,300	1,400,300
		秋	—	380,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	500,000	
	2年次	春	—	390,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	554,000	1,064,000
		秋	—	390,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	510,000	
	3年次	春	—	400,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	564,000	1,084,000
		秋	—	400,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	520,000	
	4年次	春	—	410,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	24,000	20,000	—	618,000	1,148,000
		秋	—	410,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	530,000	
	合　計		280,000	3,160,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	—	24,000	20,000	6,300	4,696,300	4,696,300

〔納入方法・その他の費用〕

本学の学費等の納入時期は、春学期と秋学期の年2回納入となっています。
教育拡充費は、新入生オリエンテーションおよび教育用コンピューター維持に係る費用です。
教職課程などを履修する場合は、別途実習費用が必要となります。また児童学科、人間福祉学科で実習科目を履修する場合も実習費用が別途必要となります。
大学で講座を受講受験する方法、学外で受講受験する方法等があります。また、履修免除もあります。

大学院 授業料等納入金（2015年度）

学年			学期	入学金	授業料	施設費	合計
博士後期課程	修士	1年	春	280,000	365,000	60,000	705,000
			秋	—	365,000	60,000	425,000
		2年	春	—	365,000	60,000	425,000
			秋	—	365,000	60,000	425,000
		3年	春	—	365,000	60,000	425,000
			秋	—	365,000	60,000	425,000

※修士課程は標準2年間、博士後期課程は標準3年間です。
※「長期履修制度」の利用希望者は、上記標準在籍年限（2年間）分の授業料を3年間または4年間で分割納入することになります。なお、分割納入できるのは授業料のみです。
※上記納入金のほか、入学時に保険料（修士課程、博士前期課程1,750円、博士後期課程2,600円）を納入していただきます。（「長期履修制度」利用希望者の保険料については「長期履修制度募集要項」参照）
※上記納入金のほか、後援会年会費5,000円を納入していただきます。
※学内進学者について修士課程・博士前期課程は入学金半額、博士後期課程は入学金全額を除きます。
※アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程シニアコースは、標準修業年限2年のところを3年、または4年まで延長することが可能です。この場合、原則として修業年限の延長に伴う新たな学費の負担はありません。

奨学金

ルーラ・ロング・コームズ記念奨学金

減免について：年間授業料の30%を学納金より減免。減免期間は1年間。
対象：全学生（日本人）。主として家計を支えている人の昨年1年間の所得金額が700万円未満。
1年生は春学期、2〜4年生は前年度学業成績GPA2.5以上。
募集期間：1年生9月上旬〜10月上旬、2〜4年生3月下旬〜4月上旬
2014年度：50名　**2013年度：**51名　**2012年度：**11名　**2011年度：**23名　※2012年度以前はラーニングサポート制度として1年生のみ対象

聖学院大学進学・修学支援制度

現在進行中の金融危機の影響で経済的な理由から大学進学をあきらめざる得ない受験生を支援するために聖学院大学では2009年度一般入試で「緊急・経済支援特別入試」を実施いたしました。2015年度入学の受験生に対しても、自立修学を支援するものとして以下の通り支援計画を実施しました。
2016年度入学の支援についても実施いたします。

2015年度入学時支援

A 学費月払い制度の適用
・申請書に基づく選考によって決定。
・申請者のうち高校在学中に「学生支援機構第一種」に予約、確定した者は、入学後支援機構から振り込まれる費用を月々自動振替によって学費にあてることとします。

B 入学金免除
・申請書に基づく選考によって決定。
・入試ごとの審査により計30名まで。

採用人数

年度	2015	2014	2013	2012	2011
学費月払い制度の適用	11	22	22	27	12
入学金相当額給付	12	22	16	28	15

聖学院大学災害被災者修学支援奨学金（東日本大震災被災者・修学支援制度）

東日本大震災にあたっても、このために大学進学の夢をあきらめないでほしいと考え、特別入試制度と緊急経済支援措置を設けて、2011年度・2012年度は入試D日程特別入試を実施しました。被災を受けられた方は被災の状況により、最大で入学金の免除と一年間の授業料の全額免除が受けられます。この緊急経済支援制度は、聖学院大学災害被災者修学支援奨学金になりました。2015年度でも同様の入学支援を行います。

1. 対象
地震・風水害等の自然災害等により被災した学生

2. 対象者
（1）家計支持者が死亡、又は家計支持者の居住する家屋が全壊もしくは全焼した者
（2）家計支持者が居住する家屋が半壊もしくは半焼した者
（3）家計支持者が居住する家屋が床上浸水した者
（4）家計支持者が居住する家屋が床下浸水または一部損壊した者
（5）災害にともない経済的に困窮した者。ただし学生本人の父母又はこれに代って家計を支えている者（主たる家計支持者一人）の収入金額が、下記a、bのいずれかである者
a.給与所得者　700万円未満
b.給与所得者以外　350万円未満
※この項目でいう収入金額とは、「給与所得者」にあっては源泉徴収票の支払金額（税込）とし、「給与所得者以外」にあっては確定申告書等の所得金額（税込）とする。

3. 支援措置内容
選考の上、下記の措置を決定いたします。
対象者（1）については、
入学金および当該年度授業料（春学期・秋学期）の全額を免除する。
対象者（2）については、
入学金および当該年度授業料（春学期・秋学期）の50%を免除する。
対象者（3）については、
入学金および当該年度授業料（春学期・秋学期）の25%を免除する。
対象者（4）については、入学金を免除する。
対象者（5）については、
入学金および当該年度授業料（春学期・秋学期）の50%を免除する。

4. 採用人数
2015年度：新入生2名　2014年度：新入生1名　2013年度：新入生2名
2012年度：新入生2名　2011年度：18名　（在学生11名／新入生7名）

奨学金利用者数

聖学院大学独自奨学金給付・貸与者数

年度	2014	2013
チャールズ・エリアス・ガルスト奨学金	6	6
女子聖学院短期大学記念国際交流奨学金	11	16

年度	2014	2013	2012
聖学院大学後援会修学援助奨学金	1 春学期0 秋学期1（給付1）	0	0
第2奨学金（ニードスカラシップ） ※2013年度より廃止			4 春学期3 秋学期1

日本学生支援機構奨学金新規貸与者数

日本学生支援機構の奨学金は、学業に励む学生自身に貸与されるものです。したがって卒業後、学生自身が返還することになります。返還金は、後輩の奨学金として再び活用する仕組みになっています。

年度	2014	2013	2012	2011	2010
第一種奨学金	39	65	45	43	44
第二種奨学金	139	172	184	190	180

留学生授業料減免対象者数

※学部生のみ

年度	2014	2013	2012	2011
単位規定（30%）	178	199	193	198
成績上位（30%）	21	36	46	70

外部奨学金給付者数

現在聖学院で取り扱っている奨学金は、上記奨学金以外にも都道府県・民間育英団体などからの各種奨学金があります。募集期間はほとんどが4〜5月に集中しています。これらの奨学金は、給付・貸与の別、奨学金、採用人数、金額など条件が各々異なり、採用人員が少数です。

年度	2014	2013	2012	2011	2010
ツツミ奨学財団奨学金	0	0	0	1	1

その他の主な修学支援制度（奨学金／教育ローン／自立支援）

・聖学院大学 学費サポートプラン
・みずほ銀行提携教育ローン
・授業料月払い制度
・キャンパス自立支援制度［生活サポート基金］

ボランティア活動

聖学院大学では、東日本大震災の被災地の復興支援をきっかけに、2011年5月、復興支援ボランティアセンターが設置。2012年度には、ボランティア活動全体を支援するボランティア活動支援センターが設置され、復興支援だけでなく、地域支援活動にも広がりが出てきています。

1. 東日本大震災復興支援活動

(1)被災者親子への支援活動

こども心理学科・金谷京子、児童学科・坂本佳代子(共に教員)及び臨床発達心理士会により、以下のような支援を継続。(2011年〜)

・加須・所沢に避難している親子への支援　・いわき市仮設での遊び広場開催　・南相馬の専門職研修・保護者心理相談

(2)岩手県釜石市を主な拠点とした活動(2014年4月〜2015年3月)

2011年12月より岩手県釜石市にて復興支援活動に取り組んでいます。冬の「サンタプロジェクト」、春の「桜プロジェクト」を中心に活動を展開しています。

日程	内容・場所		参加人数
4月18日〜20日	さいたま市「清香園」協力により盆栽桜約200鉢を現地の希望者へ贈呈配布するボランティアスタディツアー「桜プロジェクト3」を実施	鵜住居地区ほか	学生30名、教職員9名、一般1名
8月8日〜11日	ボランティアスタディツアー「よいさっ!プロジェクト」 「釜石よいさ」の参加、子どもたちを対象とした「かまっこ★あそびーランド」の実施。常盤高校と連携、実施。	釜石市鵜住居地区根浜、大只越町、鈴子町	学生27名、教職員10名、高校生10名、高校教員3名
12月5日〜7日	ボランティアスタディツアー「サンタプロジェクト4」 現地の方との郷土料理づくり、被災した同世代(高校生)の話を聞く会、こどもクリスマス会、業業ボランティア、海岸沿いの整備活動等	釜石市鵜住居地区、唐丹町、橋野町	学生40名、教職員・卒業生11名
2月7日	姜尚中学長　釜石市教育振興運動集約集会にて講演会	釜石市	

※そのほか、学内外での被災地支援募金活動を複数回実施

2. 地域連携活動他

2013年4月、地域連携・教育センターが開設し、以降、さいたま市、上尾市、春日部市、埼玉県、岩手県釜石市を中心に地域連携活動を積極的に展開しています。また、埼玉県内のボランティア活動に取り組む大学生のネットワーク組織「さいたま学生ボランティアネットワーク〜わかたま〜」の運営に、聖学院大学の学生も参加しています。

日程	内容・場所		参加人数
7月14日	NPO法人さいたまミツバチ　蜂蜜採集		学生2名
9月12日〜13日	学ボランティアセンター全国フォーラム	聖学院大学	一般参加者34名、実行委員5名(聖学院除く)、聖学院サポメン10名
10月12日	さいたま北商工共同組合「さいたまKI-TAまつり2014」参加 福祉体験ブース(車椅子体験・ボランティアクイズ)、被災地物品販売など	宮原駅西口ロータリー	福祉体験ブース学生8名
10月19日	上尾ふれあい広場 実施内容:たこ焼き販売、こども遊びコーナー	上尾丸山公園	学生11名
10月19日	コミ協フェスタIN 大谷 アカペラ部公演、防災展示応援(SAVE)	上尾市民体育館	学生2名
10月31日、11月1日	ヴェリタス祭『ボラフェス2014』 福祉施設やNPOと学生つながりの場を設置	聖学院大学	学生21名(延べ)
11月8日、9日	上尾まつり	上尾市民体育館	学生7名(延べ)
11月26日	クリスマスツリー点火祭 福祉作業所販売、SAVEによる募金活動	聖学院大学	学生7名
11月15日	大谷支部　ふれあい交流会	上尾市大谷地区	学生3名、アカペラ部数名
12月6日	キッズ・ユニバーシティ(さいたま市教育委員会)	聖学院大学	学生10名
12月11日	宮原青年クラブ主催「サンタが宮原にやってくる」ボランティア (点灯式参加、子どもたちへのお菓子プレゼント)	宮原駅東口公園	学生8名
2月14日	あげおこども大学	聖学院大学	学生2名
2月25日〜3月1日	ボランティア活動展示	さいたま市民活動サポートセンター	—
3月8日	RevA(上尾市市民ボランティアチーム)と復興支援ボランティアチームSAVEイベント 被災地の物品販売	上尾駅	学生5名
3月22日	NPO彩の子ネットワーク主催「子ども・夢・未来・フェスティバル」	埼玉県県民活動総合センター	学生13名
3月28日	スマート・サイクル☆フェスタ	上尾丸山公園	学生31名

※そのほか、学内外での被災地支援募金活動、ボランティア講演会などで事例報告等を複数回実施。

3. 学生サポートメンバー養成講座

学生と共につくる、育つセンターを目指し、2012年のセンター開設時から年1回、「聖学院大学のボランティア活動を盛り上げる」学生コーディネーター養成を目的とした講座を実施。これには、「埼玉学生ボランティアネットワーク〜わかたま〜」でつながった他大学の学生も参加しました。(6月〜7月全6回、受講者23名)

「夏のボランティア体験プログラム」紹介キャンペーン

主に、ボランティア初体験の学生たちが地域活動に参加する機会をつくりました。また、その体験をきっかけに、ボランティアを継続する学生が増えています。